

報 告

第 65 回日本歯科理工学会学術講演会報告

平成 27 年度春期第 65 回日本歯科理工学会学術講演会が、東北大学大学院歯学研究科顎口腔機能創建学分野教授、鈴木 治先生を大会長として、2015 年 4 月 11 日、12 日に宮城県仙台市の仙台市情報・産業プラザにて開催された。本大会における一般講演の演題数は、口頭発表 30 題、ポスター発表 90 題の計 120 題であった。特別講演は 2 題で、そのうちの 1 題は Dental Materials Adviser/Senior Dental Materials Adviser 特別セミナーを兼ねたものであった。また、企業展示も開催された。

今大会は、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災後に開催された 58 回学術講演会（奥羽大学歯学部、福島県郡山市、2011 年 10 月 22 日、23 日）以来の東北地方での開催であったが、演題数も多く、参加者数も約 400 名と多く、学会会場は賑わっていた。

大会初日の口頭発表では、細胞および無機材料をテーマとした 14 題の講演が行われた。また、ポスター発表では、2 題の研究奨励賞応募講演と細胞 5 題、セメント 9 題、チタン・金属材料 12 題、CAD/CAM・器械・技術 10 題、臨床応用 8 題の計 46 演題の講演が行われた。今大会も 2013 年度から導入された奇数番号演題の討論と偶数番号演題の討論が午前の部・午後の部に分けられて行われ効率的な討論が行われた。

大会初日の特別講演 1 は、北海道大学大学院歯学研究科硬組織発生生物学教室の網塚憲生教授によって、「骨の細胞・石灰化基質および骨再生における微細構造学的

知見」と題して行われた。講演では骨に存在する細胞の構造や機能、骨基質石灰化の微細構造学的なプロセスが紹介され、さらに演者が携われた生体材料と骨再生の組織学的知見が紹介され、生体材料の開発に関係する本学会会員に大変有意義な講演であった。

大会 2 日目の口頭発表では、金属材料、有機材料・臨床応用と器械・技術をテーマとした 16 題の講演が行われた。また、ポスター発表では、主にインプラント・生体組織・毒性 9 題、生体用セラミックス 10 題、コンポジットレジン 8 題、接着 9 題、レジン・印象材 8 題の計 44 題の講演と討論が午前・午後にわたって熱心に行われた。

2 日目の特別講演 2 および Dental Materials Adviser/Senior Adviser 特別セミナーは、東北大学大学院工学研究科材料システム工学専攻医用材料工学分野の成島尚之教授によって、「金属系バイオマテリアルの表面・組織制御」と題して行われた。講演では金属系バイオマテリアルの表面・組織制御研究の例として演者らが行った NiTi および Co-Cr 合金の晶析出物制御と Ti および Ti 合金表面への TiO₂ 皮膜形成が紹介され、さらに今後の研究動向まで展望され、本学会特別セミナーとしても大変有意義な講演であった。

仙台市付近は桜が満開の時期で、小雨交じりの生憎の天気であったが、鈴木 治大会長、高田雄京準備委員長（東北大学大学院歯学研究科歯科生体材料学分野准教授）を始めとする運営スタッフ皆様のご尽力により盛会裡に今大会は終了した。これをもって第 65 回日本歯科理工学会学術講演会の報告とさせていただきます。

廣瀬英晴

（日本大学歯学部歯科理工学講座）

